

平成25年度（2013年度）
自己点検・自己評価報告書

2014年10月

学校法人 新潟高度情報学園
新潟高度情報専門学校

新潟高度情報専門学校が掲げる、技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた、人間性豊かな技術者及び実務者を育成するという目的において、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること、および、学校評価の実施およびその結果の公表を適切に行なうことで学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと専修学校との連携協力による特色ある専修学校づくりを推進するべく、自己評価、学校関係者評価を行う。

以下、平成25年度の自己点検・自己評価結果を記す。

○平成25年度学校関係者評価委員

氏名	役職・所属
石澤 直樹	新潟高度情報専門学校長
亘 英一	新潟高度情報専門学校 教務課長
山田 賢一	新潟高度情報専門学校 教務課長
金子 貴之	新潟高度情報専門学校 教務課長

平成25年度 自己点検・自己評価

1. 学校の教育目標

学校教育法に基づき、技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身につけた、人間性豊かな技術者及び、人材を育成する。

設立時の役員の理念を大切にしており、その精神は現在も引き継がれている。

また、最新の技術の習得にも力を入れ、これからの地元新潟および日本の情報技術の発展に寄与できる人材育成を目的としている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

産学連携、地域との連携の強化およびリキュラム充実ならびに地域への学校連携の強化を図る。
ビジネス系学科を除く全学科において、職業実践専門課程の認可を受ける。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) . 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1
・学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	4 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に 周知されている	4 3 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 3 2 1

① 課題

- ・保護者へ学校から提供する情報の周知方法と充実さを検討する。

② 今後の改善方策

- ・保護者へ学校から提供する情報の周知方法と充実さの妥当性を検討したい。

③ 特記事項

平成24年度より

- ・新潟高度情報専門学校の目指す到達レベルや学生に合わせた学習課題を準備している。
- ・学生便覧の作成を計画中。

(1) . 教育理念・目標

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	
理念・目的は学則に明記し、育成人材像は学生マニュアルでさらにわかりやすく表現してある。これらの内容を周知徹底し、教職員・学生とも共有することが目標とする教育を実践するうえで重要である。	4
・学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	
人間教育(道義礼節を兼ね備えた技術者の育成)、資格取得、担任制、精神的な自律と技術者として自立できる学生の育成を特色として掲げている。そして、情報の技術進歩に合わせ、トレンド・技術をカリキュラムに反映させるために産学連携を推進し、企業連携の充実を図るため各分野の業界団体に参加し情報収集にあたっている。	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	
産学連係事業を通して社会ニーズの把握と新潟高度の名前にふさわしい優秀な人材の輩出を目指し、社会に貢献する学校をめざしている。教員は、先進的な技術を自ら講座等に参加し、カリキュラムに落とし込むことが必要である。 業界的に、5年、10年先よりも、学生が卒業する2～4年後を想定し、社会に必要とされる知識や、開発ツールに頼らず基本となるプログラミング技術の習得を重要とする指導方針を重視し、実際に役に立つ事柄を教え伝えていきたい。	4
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	
学生、保護者、地域に広く周知する必要がある。学生マニュアルに記載済み。他、ホームページやパンフレット等への掲載のほか、保護者会で理念紹介や資料配布等を充実させていきたい。	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	
必要とされる人材像を業界毎に検討し見直しを行っている。業界動向を把握するための、関連企業との連携強化を進めている。	4

(2) . 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか。	4 3 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか。	4 3 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4 3 2 1
・地域社会等に対して学生が交流でき体制が整備されているか。	4 3 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4 3 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4 3 2 1

① 課題

- ・成績処理システム等、以前より使用しているシステムの陳腐化。

② 今後の改善方策

- ・職業実践専門課程および単位制へ対応により、学則変更が発生、それにより新システムへの移行により、新システムへの移行を検討。合わせて教職員の共通理解を進める。

③ 特記事項

- ・校内システムのアクセス権の管理がサーバマシンのリニューアルと合わせて少しずつであるが改めている。

(2) . 学校運営

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

・目的等に沿った運営方針が策定されているか	
全体会を通じて年度当初に研修を実施。学生マニュアル・教員マニュアルを整備し、運営方針を定めている。 職業実践専門課程・企業連携を効果的に実施するため、運営について検討する。	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	
事業計画に基づき実施されている。人材育成並びに資格取得・就職内定について目標達成をめざし教職員が努力している。 学生確保が厳しくなることが予測され、学校として高校生や将来を考える小中学生に情報技術の必要性を広く知ってもらい、情報処理に興味を持ってもらうことができる機会を提供すること等、様々な取り組みをおこなっている。	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	
組織、意思決定には問題はない。グループウェアを有効活用し決済の迅速化を図っている。事務職員の担当業務の増加により事務分掌の見直しを進めている。	4
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	
整備されている。人事考課については学校経営全体の収支に応じて判断している。	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	
グループウェアが導入されており、各役職での決済、承認権限を与えている。他、出欠席委員会、進級会議、理事会等それぞれの意思決定の為の仕組みがあり、会議の実施により意思決定している。	4
・地域社会等に対して学生が交流できる体制が準備されているか	
対外活動(エール活動やCANIプロジェクト)等の地域に根差した活動している。産学関係の強化にともない、学習として学生らが学外に出ていくことが多くなってきている。	4

・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	
学校行事や産学連係や対外活動(エール活動やCANIプロジェクト)、小学校・高校での出前授業など活動範囲も広がってきている。ホームページやSNSを通した活動を紹介している。	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	
校内システムによる業務の効率化は図られている。しかし、セキュリティ管理・運用が利用経過とともに曖昧になっている状況が見受けられる。 従来から自前の成績管理システム、出欠席管理システム、予算管理システム等を運用し、グループウェアを導入しているが、システムの陳腐化や、グループウェアによる効率的な利用方法については検討・改善の余地がある。	2
[改善策等] アクセス管理内規のマニュアル化、アクセス・ログ管理、教職員へ教育・啓蒙を実施する。 教育課程の変更や学習スタイルの変更等に伴い、成績処理・学務システムのリニューアルやグループウェアの利活用方法の再教育も必要であり次年度に向け計画の整備・実施する。	

(3) . 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	工学	情報	ゲーム	ビジネス
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4	4	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4	4	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	4	4	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4	4	3
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	4	4	3
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3	3	3	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	4	3	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	4	4	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4	4	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4	4	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	4	3	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	4	3	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3	3	3	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	4	4	4

① 課題

[高度情報科学科(大学併修科)]

- ・就業体験受け入れ先企業の開拓が必要
- ・教員の専門分野や新技術に対しての更なるスキルアップが必要

[高度情報システム科／情報システム]

- ・就業体験受け入れ先企業の開拓が必要
- ・教員の専門分野や新技術に対しての更なるスキルアップが必要

[ゲーム開発専門科・技術科]

- ・業界団体や関係企業の連携強化必要
- ・教員の技術研究のための時間の確保が困難な状況がある

[情報ビジネス]

- ・在学生の到達レベルは入学生の学力により変化しやすい。情報ビジネス科の到達目標及び授業科目の変更等で対応しているが教務業務は煩雑になってしまう。

② 今後の改善方策

[高度情報科学科(大学併修科)]

- ・スキルアップの為積極的に外部研修に参加するとともに、並行して内部研修を行う。

[高度情報システム科／情報システム]

- ・職業体験受け入れ先企業の開拓のための計画・交渉すすめる。
- ・スキルアップの為積極的に外部研修に参加するとともに、並行して内部研修を行う。

[ゲーム開発専門科／技術科]

- ・関連企業やOBなど外部との関係性強化に努める。
- ・ビデオ会議利用した遠隔授業の実施を検討し、連携企業の授業参加を実施し易くする。
- ・研修やセミナーの情報収集に努め、積極的に参加すると同時に社内研修にも取り組む。

[情報ビジネス]

- ・実務を意識した授業が実施できる様、主要科目については現場経験豊富な非常勤講師に依頼し、実務おける知識・経験および検定取得を意識した学生指導を行う。学生数も少なく、学生の能力を向上させるための業務負荷は致し方ない。

④ 特記事項

- ・情報ビジネス科の募集は、25年度で終了。
- ・各学科の詳細は最後に添付。
- ・教務課長が就職担当を兼務し、学生の就職指導とあわせ企業ニーズの把握につとめる。
- ・研究施設としてC³Labo(シーキューブラボ)を用意した。
- ・学生のコミュニケーション力の向上を図るため、各授業の中で担当が工夫して取り組んでいる。

平成25年度目自己点検・自己評価 学 科 高度情報科学科(大学併修科)

(3) . 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	
教育理念をふまえ、資格取得、自分で調べる力、目標に向かって計画・実行できる能力、コミュニケーション力の向上など総合的な人間力の向上を目指し、技術と実践を兼ね備えた新潟高度の教育と、連携先の帝京大学として知識、研究の教育があり、双方を満たす教育課程の編成を策定、実施している。	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
社会のニーズに合わせ、学士取得・技術者養成を連動させ、社会の求める人材育成の為にカリキュラム検討を重ねている。 又、学生に対して学校及び大学併修科の教育方針を学生マニュアルに明示し、入学時にカリキュラム、コマシラバスと共に説明することで、教育到達レベル及び学習時間を明確にしている。	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
技術習得・資格取得に合わせたカリキュラムであり、かつ学士を取得する為に編成された内容となっている。 又、コンピュータの技術習得や資格試験に対し十分に時間を割き、無理なく大学の単位を取得できる体系的カリキュラムになっている。	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
幅広い社会性、コミュニケーション力の科目配置だけでなく産学連携に基づく実践教育も取り入れ、科目としてのキャリア教育の他、個々のケースに応じたキャリアサポート強化を図っていくきめ細かなサポート体制を整えている。	4

・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	
今年度は帝京大学のカリキュラムが一部修正された為、それに合わせ必然的に定期的な見直しの必要性が生じている。 関連分野の複数企業、及び業界団体の方に参画頂き、年2回「教育課程編成委員会」を実施し、カリキュラムや実施方のご意見を頂き、その結果と技術動向を踏まえ柔軟に次年度カリキュラムの作成、及び見直しを行っている。	4
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携による実習等)が体系的に位置づけられているか	
関連分野企業の方に非常勤講師として授業を行い、評価を頂いている。職業教育等に関しては今後、受け入れ先企業を探し連携を進めていく。職業教育が可能な教科目を用意し、その内容の整備を図っている。	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	
半期毎に学生への授業理解度アンケートを実施し、評価結果を講師にフィードバックすることで、学生の理解度及び改善点を把握し、学生の満足向上に努めている。 又、アンケート結果に問題があれば担当にヒアリングを行い、学科長を中心に適宜見直しを実施し、次回の担当授業に生かしている。	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	
教育課程編成委員会で外部関係者の方々から、職業教育に関する評価・アドバイスは頂いたが、具体的に取り入れる段階までには至っていない。 今後は定期的に評価を頂き、カリキュラムや学生指導に取り入れていきたい。	3
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	
評価や認定の基本は共通となっており明確である。 期末試験に重きを置き、平素の授業態度、確認テスト、授業出席率、課題提出状況による総合点により評価を行い、進級及び卒業を認定する。	4

・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	
情報系の主要目標検定である情報処理国家試験においては、ITパスポート ⇒ 午前免除試験 ⇒ 基本情報 ⇒ 応用情報 ⇒ 高度試験と段階的に取得するカリキュラム構成となっている。 又、合格率向上の為、試験の数週間前より対策授業を行い、合格をサポートしている。	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	
客観的な評価尺度としては情報系教員全員が情報系国家資格を取得している。今後は教員もスキルアップが必要不可欠である。	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	
教育課程編成委員会、及び学校関係者評価委員会などで関連分野における業界関係者とコネクションを持ち、カリキュラム作成を始め、授業協力等の関係を築いている。	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	
外部研修へ参加、セミナーや展示会などにも参加し、知識・技能等の向上を図っている。 教員の教授力については授業アンケートを活用し内部評価・指導をおこなっており、新入社員・中堅社員について外部研修に参加させ教授力の向上を図る。継続して、新しい技術の吸収が必要であり、特に専門分野のスキルアップの為に外部研修に参加させい。	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	
特に学科としての職員は配置されていないが、学校として外部での研修に参加、業務知識習得のため研修に参加している。	4

平成25年度目自己点検・自己評価

学 科 高度情報システム/情報システム科

(3) . 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	
「学校教育法に基づき、技術者の養成に合わせ、教養・人格の高い道義・礼節・作法をも身につけた、人間性豊かな技術者及び人材を育成する。」という教育理念に基づき、知識・技術だけでなく、人間として評価される人材となる様、教育課程の編成を行っている。 その上で、資格取得、自分で調べる能力、目標に向かって計画・実行できる能力、コミュニケーション能力の向上、先生を超える学生の輩出できる様、学校・教職員は学生等を親身に指導・サポートするよう実施する方針である。	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
IT業界の技術動向や世の中のニーズに合わせた資格取得、技術者の養成に努め、毎年、社会の求める人材育成のためのカリキュラム検討を重ねている。 各科目のコマシラバス及び履修計画を作成し、その中で教育到達レベル及び学習時間を明記し、学生に提示している。 確認テスト、実習課題等を小まめに実施しクリアさせることで、一定の教育到達レベルを担保し、又、2年課程、3年課程共修業年限に応じた教育成果として卒業年次後期に卒業研究科目を設け、集大成としている。	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
技術動向や社会ニーズをカリキュラムに取り入れる為に毎年見直しを図り、資格取得とキャリア教育を柱としたカリキュラムを構築し、教育方針に従い目指すべき人材像に添うように、各学科において入学から卒業までのスパンで体系的に編成している。 今後は業界団体などの意見も取り入れた、より実践的なカリキュラムにしていきたい。	4

・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
専門学校の役割である就職予備校として、入学時より就職に対しての意識付けを行い、就職前年度通年科目として「キャリアデザイン」を実施し、各分野の外部企業の方々から講演をして頂くなど、授業内外において就職支援を行う環境がある。 又、上記科目以外の授業内でも「キャリア教育」的な要素を取り込み、日常的な学校生活においても学生、教員間の礼儀作法をはじめとし報告、連絡、相談など社会人として必要な要素を身に付けるよう指導している。	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	
関連分野の複数企業、及び業界団体の方に参画頂き、年2回「教育課程編成委員会」を実施し、カリキュラムや実施方のご意見を頂き、その結果と技術動向を踏まえ柔軟に次年度カリキュラムの作成、及び見直しを行っている。	4
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携による実習等)が体系的に位置づけられているか	
関連分野企業の方に非常勤講師として授業を行い、評価を頂いている。また、職業教育に関しては今後、受け入れ先企業を探し連携を進めていく。	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	
半期毎に学生への授業アンケートを実施し、評価結果を講師にフィードバックすることで、学生の理解度及び改善点を把握し、学生の満足向上に努めている。 又、アンケート結果に問題があれば担当にヒアリングを行い、学科長を中心に適宜見直しを実施し、次回の担当授業に生かしている。	4

・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	
卒業研究科目において、関連企業の方に入って頂き、何度か学生の制作物に対してのレビューを行い、専門的なアドバイスを頂いた。 厳しい意見もあったが、学生にとっては良い刺激となり、制作物のクオリティが上がった。今後はさらに企業連携を深め、より実践的な職業教育を実施したい。	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	
評価や認定の基本は共通となっており明確である。 期末試験に重きを置き、平素の授業態度、確認テスト、授業出席率、課題提出状況による総合点により評価を行い、進級及び卒業を認定する。	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	
情報系の主要目標検定である情報処理国家試験においては、ITパスポート ⇒ 午前免除試験 ⇒ 基本情報 ⇒ 応用情報 ⇒ 高度試験と段階的に取得するカリキュラム構成となっている。 又、合格率向上の為、試験の約1か月前より対策授業を行い、合格をサポートしている。	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	
客観的な評価尺度としては情報系教員全員が情報系国家資格を取得している。 今後も教員のスキルアップが必要不可欠である。	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	
教育課程編成委員会、及び学校関係者評価委員会などで関連分野における業界関係者とコネクションを持ち、カリキュラム作成を始め、授業協力等の関係を築いている。	4

・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	
職業教育実践課程の立ち上げ前より、外部研修へ参加、セミナーや展示会などにも参加し、知識・技能等の向上を図っている。 教員の教授力については授業アンケートを活用し内部評価・指導をおこなっており、新入社員・中堅社員について外部研修に参加させ教授力の向上を図る。継続して、新しい技術の吸収が必要であり、特に専門分野のスキルアップの為、外部研修に参加させたい。	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	
特に学科としての職員は配置されていないが、学校として外部での研修に参加、業務知識習得のため研修に参加している。	4

平成25年度目自己点検・自己評価 学 科 ゲーム開発研究/専門/技術科

(3) . 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	
チームでのゲーム開発を通じて自分の役割や求められる人材像を理解し、自身の成長につなげられるように教育課程を編成している。	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
年々、新たな技術が生まれ業界のニーズも多様化し、求められるレベルが高くなるなかで可能な限りカリキュラム等に反映させて教育到達レベルの引き上げを行っている。学習時間については、更なる技術力向上のため授業時間だけでなく寸暇を惜しんで制作に取り組む熱意が求められる。	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
プログラマ、CGのコース毎にゲーム業界への就職を前提としたカリキュラムが編成されている。未経験者が入学後に基礎的な内容からステップアップし、高度な技術を習得できるように段階的な科目編成となっている。プログラミングやCG制作の根幹となる科目を中心に、技術の進歩やトレンドに合わせて改変を行っている。	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
ゲーム開発企業を講師に迎えた授業や業界セミナーなど、現場で働くプロから指導を受ける機会を設けている。ゲーム開発は複数名で行われるため、在学中からチームでの制作を行っており、卒業までに3～5作品を制作する中でチーム開発に重要なスキルを身に付けさせている。また、東京ゲームショウへの出展や各種コンテストへの応募を通じて、課題ではなくユーザに向けた作品として開発させている。 日々の教員と学生のコミュニケーションが充実しており、授業外の学校生活でもフォローしている。	4

・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	
教育課程編成委員のメンバーや関連企業よりアドバイスを受けてカリキュラムの作成・見直しを行っている。企業により求められる技術や考え方が異なるため一方的に意見を受け入れるのではなく、当校のゲーム系学科の方向性を明確にしたうえで連携を取る必要がある。	4

・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実習等）が体系的に位置づけられているか	
ゲーム開発関連企業によるセミナーや新潟市内のゲーム開発会社による授業などを実施している。関連企業は県外に集中しているため、企業開拓を進めるとともに、インターネット等を活用しての職業教育実施を模索する。	3

・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	
各学期末に授業アンケートを実施している。評価内容に目立った点があれば学科長より聞き取り調査が行われ是正を促している。授業アンケートは授業毎に実施することを検討している。	3

・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	
教育課程編成委員のメンバーや業界で働くOBを中心にアドバイスを受けている。特にOBからは学習内容が現場でどのように活かされているか、現場を経験して在学期間中に学んでおきたかった事などを聞き取り、カリキュラム等に反映している。	4

・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	
評価や認定の基本は全学科で共通となっている。単位認定基準は明確だが、CGのクオリティやゲームの面白さなどの評価は客観的な評価に努める必要がある。	4

・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	
他の学科に比べ受験する資格が少なく、資格取得を軸としたカリキュラムではないが、受験する資格は全員合格を目指して指導を行い、必要に応じて対策授業を行っている。	4
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	
ゲーム開発に用いる技術の進歩やニーズが変化する中で、業界研究や技術研究を行い、学生一人ひとりと向き合うことで毎年卒業生をゲーム業界へ輩出している。 業務との兼ね合いで研究時間が思うように取れない時期もあるため、一年を通して安定した研究時間が確保できるように進めたい。	3
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	
ゲーム開発経験者は根本的に数が少なく、兼務であっても確保が難しい現状にある。現時点では新潟市内のゲーム開発企業より非常勤講師として授業を行ってもらっているが、ビデオ会議システム等を利用し、遠隔授業の導入を検討したい。	3
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	
毎年、東京ゲームショウやゲーム系のカンファレンス「CEDEC」へ参加するなど、先端的な知識を習得しているが、技能関係は外部研修の機会が少なく、各自の研鑽が中心となっている。企業との連携を進めて技術研修を活性化させたい。	3
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	
特に学科としての職員は配置されていないが、学校として外部での研修に参加、業務知識修得のため研修に参加している。	4

平成25年度目自己点検・自己評価

学 科 情報ビジネス科

(3) . 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	
基本的な自身の将来像が定まっていない・就職や目的意識が希薄である学生に対し、目指す方向性・職種が幅広いため、どこに焦点を合わせるかなどの学生の意識指導が重要。また、専門性が必要とされる仕事を選ぶためには、早い段階で何を履修させればよいか絞り込みづらい。ビジネスは特に、他学科に比べると人としての魅力が強く求められる傾向にあるため、人間性教育においては特に気を配っている。 本校の教育方針に掲げる人材の育成ならびに情報ビジネス科教育方針をもとにした教育課程により実践型の授業を展開することで、地元から必要とされるビジネスマンの育成を図っている。	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
学科設置の目的と世の中のニーズに合わせ、資格・検定取得、仕事を適切にこなす技術とを連動させ、社会の求める人材育成のためのカリキュラム検討を重ね、シラバス・履修計画等を作成し明確にしている。 ただし、授業で習った知識や技術の定着には放課後を主とした授業時間外の利用が望ましいと考える。学生自らが高いモチベーションを維持して、授業時間外も積極的に学習できるための環境づくりやクラス運営等が重要である。 成果物(検定・プレゼンテーション・作品制作 等)を求める学科であるため、課題への取り組みや作品制作等、授業外の時間を充当することで、単に終わらせるだけでなく、自己満足とならない、業界が求めるレベルに近づくことが出来る。	4

・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
就職先を見据えた在学期間中の履修計画やシラバスその他資料により体系化している。 実務を意識した授業が実施できる様、主要科目については現場経験がある者を非常勤講師に依頼し、実務における知識・経験および検定取得を意識した学生指導を行う。ただし学生数は少ないが、能力差があるため学生の能力を向上されるための業務負荷はいたしかたない。 在学生の到達レベルは入学生の学力により変化しやすい。情報ビジネス科の到達目標及び授業科目の変更等に対応しているが教務業務は煩雑になってしまい大幅に変更することもある。	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
OBや外部講師による講演などと、担任が中心となり授業や日常で学生に指導を行っている。ビジネスマナーや就業意識を学生に浸透させるには時間がかかると感じており、普段の授業内や、学生とのコミュニケーションでも継続して対応する必要がある。 現状では、外部コンテストや新潟市生涯学習センターでの講座開催などを通して、同世代以外との交流をすることや、企画から運営までの行動に対し一定の評価をいただいている。他、学生の就業意識と連動できるような提携先の拡大も必要と考える。	3
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	
学生達の企画を発信できる場として機会をいただき、実施後の総括として評価をいただいている状況。詳細については検討する余地があるので、他の機会や協力機関を増やしカリキュラムへの取込み・見直しを検討したい。	3
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携による実習等)が体系的に位置づけられているか	
現状での職業教育の内容についてはカリキュラム要素の重点ではあるが、内容および協力先からの評価・見直しへの参画をしていただける部分について、内部で検討し連携を進めたいと考える。	3

・授業評価の実施・評価体制はあるか	
半期毎に学生からの授業評価を含め実施している。シラバスと授業実績の検証、学生評価のフィードバックを行う。学生の理解状況等を判断し、適切であったかの検証を行い、関係教員と授業改善を図っている。 シラバスおよび授業内容について新しい取組みの追加・改善のためにも各授業毎やテーマ毎に学生からの評価や理解度の確認を行い、詳細に修正できるよう対応したい。	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	
今迄の協力体制における発表等実技での内容評価は行っていたが、カリキュラム全体を通しての評価については継続して検討が必要である。実技・実習内容についても協力企業等と密接に連携したいと考える。	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	
評価や認定の基本は学校共通となっており明確である。成績評価は、妥当性の検討が必要な場合もある。企画系の授業においては正解が存在しない為、評価者の判断基準が曖昧にならないようにしなければならない。また、授業時間外の利用やグループワーク課題等により、個人の成果を把握しづらい面があり、成績評価の際は注意が必要と考える。	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	
企業ニーズを加味し、カリキュラム作成時に設定している。受験する資格は全員合格を目指すため必要に応じてサポートを実施する。資格の受験時期が重なることや就職活動もあり、実習系授業の進捗により学生が資格取得に集中できない場合もあるため、学習面だけでなくメンタル面での指導も必要である。	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	
非常勤講師と常勤教員が連動し人材育成を行っている。検定等の学生指導において常勤教員による指導が重要な部分もあり、常勤教員の自己研鑽が必要な場合もある。	4

・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	
本部、総務を通じて姉妹校との情報交換、課長（科長）らが連携し教員の採用活動を行っている。また、対外活動を通じてコネクションを広げている。	4

・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	
職業教育実践課程の立ち上げ前より、外部研修へ参加、セミナーや展示会などにも参加し、知識・技能等の向上を図っている。教員の教授力については授業アンケートを活用し内部評価・指導をおこなっており、新入社員・中堅社員について外部研修に参加させ教授力の向上を図っている。また、新しい技術の吸収が自己研鑽にとどまっている状況である。	3

・職員の能力開発のための研修等が行われているか	
特に学科としての職員は配置されていないが、学校として外部での研修に参加、業務知識習得のため研修に参加している。	4

(4) . 学修成果

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	工学	情報	ゲーム	ビジ ネス
・就職率の向上が図られているか	4	4	4	4
・資格取得率の向上が図られているか	4	3	4	3
・退学率の低減が図られているか	4	4	4	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	4	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	3	4	4

① 課題

[高度情報科学科(大学併修科)]

なし

[高度情報システム科・情報システム]

- ・一部目標に届かない資格・検定試験があった。
- ・卒業生の職務先での活躍について把握できていない。

[ゲーム開発研究科／専門科／技術科]

- ・卒業年次生の就職活動の早期化を促したい。

[情報ビジネス]

- ・検定合格率が目標に届かない資格・検定試験があった。

② 今後の改善方策

[高度情報科学科(大学併修科)]

- ・HRや授業を通じ意識付けを徹底するとともに、実習系授業の課題を整備する。
- ・1年次よりキャリア教育や外部の方からの講演など行い職業意識を高める。
- ・卒業生に協力依頼し、授業科目・内容の有用性の確認・科目の修正を検討する。

[高度情報システム科／情報システム]

- ・教員個々の力ではなく、組織として連携し結果につなげたい。
- ・卒業生に協力依頼し、授業科目・内容の有用性の確認・科目の修正を検討する。

[ゲーム開発研究科／専門科／技術科]

- ・作品開発の規模を縮小する代わりに完成度を上げて、早期応募ができるように指導する。

[情報ビジネス]

- ・取りこぼした検定は、対応する授業を用意し卒業までに合格させたい。また、次年度に向け、学習が効率よく行えるよう授業資料等プリント教材を整備する。

③ 特記事項

- ・情報ビジネス科の募集は、25年度で終了。
- ・各学科の詳細は最後に添付。
- ・精神的に弱い学生の拠り所となる様、養護教員の配置を検討。

平成25年度目自己点検・自己評価 学 科 高度情報科学科(大学併修科)

(4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・就職率の向上が図られているか	
学生数が少ないこともあり学生個々に対応できている。内定時期が遅い学生がいるため、早期の全員内定を目指す。	4
・資格取得率の向上が図られているか	
学生数が少ないため、合格者の数で資格取得率が大きく影響する。検定前対策を実施することで、取得率の向上を図っている。	4
・退学率の低減が図られているか	
ドロップアウトが発生ないよう、ガイダンスを通じ学生の把握と指導には注意し、担任だけでなく学科・学校として共通理解し学生を注視することで退学への歯止めとしている。	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
在校生の活躍の状況については学校ホームページや同窓会会報、校舎外壁での掲示等を通じ対外発信している。 卒業生の活躍については企業側の許可等が必要な場合が多く対外的にアピールできない部分や、卒業生と学校とのネットワークが密でないため、卒業生との交流機会を増やしその動向を把握する必要がある。 24年度には第一期生を輩出、今後継続して連絡を取る体制をつくっていきたい。	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
第一期生を輩出し、今後、職業実践専門課程を機に、卒業生を含む企業との連携を強化し、優れた教育活動となるよう情報収集しカリキュラムへ反映したい。	3

平成25年度目自己点検・自己評価 学 科 高度情報システム/情報システム科

(4) . 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・就職率の向上が図られているか	
学生数が少ないこともあり学生個々に対応できている。ただし、内定時期が遅い学生がいるため、早期の全員内定を目指す。	4
・資格取得率の向上が図られているか	
学生数が少ないため、合格者の数で資格取得率が大きく影響する。検定前対策を実施することで、取得率の向上を図っているが、組織として連携し更に結果につなげていきたい。	3
・退学率の低減が図られているか	
ドロップアウトが発生ないよう、ガイダンスを通じ学生の把握と指導には注意し、担任だけでなく学科・学校として共通理解し学生を注視することで退学への歯止めとしている。	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
在校生の活躍の状況については学校ホームページや同窓会会報、校舎外壁での掲示等を通じ对外発信している。 卒業生の活躍については企業側の許可等が必要な場合が多く対外的にアピールできない部分や、卒業生と学校とのネットワークが密でないため、卒業生との交流機会を増やしその動向を把握する必要がある。	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
職業実践専門課程を機に、卒業生を含む企業との連携を強化し、優れた教育活動となるよう情報収集しカリキュラムへ反映したい。	3

平成25年度目自己点検・自己評価 学 科 ゲーム開発研究/専門/技術科

(4) . 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・就職率の向上が図られているか	
履歴書や面接の指導は個人レベルで行っており、学生一人ひとりに合わせて細かな指導を行った結果、高い就職率を実現した。	4
・資格取得率の向上が図られているか	
資格取得を軸としたカリキュラムではないが、受験資格は全員合格を目指す難易度の資格が多いため、必要に応じて対策授業を行った。	4
・退学率の低減が図られているか	
担任や関係教員は放課後などに教室へ滞在する時間を設けて、クラスの雰囲気づくりをすることで学生間のコミュニケーションは良好となり、人間関係が原因での退学率低下につながっている。	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
在学中から学生と教員のコミュニケーションが図られており、卒業してからもSNS等を通じて情報交換が行われている。在校生についてはコンテストへの応募に伴う受賞結果が主な活躍の場となる。	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
在学中から学生と教員のコミュニケーションが図られており、卒業してからもSNS等を通じて情報交換が行われている。学習内容が現場でどのように活かされているか、現場を経験して在学期間中に学んでおきたかった事などを聞き取り、カリキュラム等に反映している。	4

平成25年度目自己点検・自己評価

学 科 情報ビジネス科

(4) . 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・就職率の向上が図られているか	
学生数が少ないこともあり学生個々に対応できている。ただし、内定時期が遅い学生がいるため、早期全員内定を目指す。	4
・資格取得率の向上が図られているか	
検定前対策を実施することで、取得率の向上を図っている。より多くの合格者を排出できる様に担任・強化担当と連携し、結果につなげていきたい。	3
・退学率の低減が図られているか	
無駄なドロップアウトが発生しないよう、学生の把握と指導には注意し、担任だけでなく学科・学校として共通理解し学生を注視することで退学への歯止めとしている。	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
在校生の活躍の状況については学校ホームページや同窓会会報、校舎外壁での掲示等を通じ対外発信している。 卒業生の活躍については企業側の許可等が必要な場合が多く対外的にアピールできない部分もあるが、卒業生との交流機会を増やしていきたい。	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
職業実践専門課程を機に、卒業生を含む企業との連携を強化し、優れた教育活動となるよう情報収集しカリキュラムへ反映したい。卒業生から得た情報は、関係教員で共有し・学生に伝え、就職指導の面で生かされている。	4

(5) . 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4 ③ 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	④ 3 2 1
・学外活動に対する支援体制は整備されているか。	④ 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか。	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか。	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか。	④ 3 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	④ 3 2 1

① 課題

- ・チューター制度の実働が不十分。
- ・学外活動に対する事前・事後指導の実施など環境整備を進めている。
- ・卒業生への情報収集・提供が十分ではない。

② 今後の改善方策

- ・チューター制度の検討。
- ・課外活動において教育に係る活動への支援体制、活動へ参加する学生への指導教育の検討。
- ・卒業生への情報提供の強化を検討。

③ 特記事項

(5) . 学生支援

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	
昨年度計画にあった就職相談室、就職・進路資料室が設置され、企業・進路について情報収集や採用試験対策など積極的な利用が可能。キャリアデザイン授業の実施や外部企業による各種説明会を実施、クラス担任と就職担当とが連携をとり学生との面談を行いながら早期内に結びつけている。	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	
担任制で学生とのコミュニケーションを図り指導する体制を重要としている。学生間の交流の為に交流会の実施、カウンセラー(臨床心理士)を設置し精神的な問題を有する学生への対応を行っている。チューター制度の効果的な活動の検討が必要と考える。	3
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	
入学時の特待生制度等の各種制度や在校生向けの優待生制度、授業料延納制度など充実させている。優秀な学生を入学させ技術を身に付けさせ社会に輩出することは重要な使命と考える。また、年間の諸経費についても可能な限り削減を実施している。進級しても前年度の学費を納入できないケースや奨学金を借り入れても学費に充当できないケースもある。	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	
年1回の健康診断を実施。就職迄に仕事に支障がないよう健康状態を把握する。精神面を除き現時点では専門医を置く必要はないが必要に応じて姉妹校の教員に依頼することも可能。また、外部に学校担当医を依頼している。	4
・学外活動に対する支援体制は整備されているか	
CANIプロジェクトやエール活動、ゲーム学科による東京ゲームショウへの出展および運営を学生等が中心に実施できる様に各学科が取り組んでいる。 最新技術習得のため機材等の充実を図ることや、新たな学生作品の展示・発表機会を増やすなど必要に応じて支援している。 今後出てくる新規活動に対し、円滑に活動できるように支援制度を検討している。	4

・学生の生活環境への支援は行われているか	
遠隔地出身者の為の民間宿泊施設を借り受け、姉妹校ともに学生寮として提供している。また、一般の自動販売機以外に、お湯・冷水の自由利用、ワンコインで購入できる無人購買を提供することで、学生のちょっとした食欲と興味と道徳心・自立心・責任感も感じ取れるよう環境整備を行っている。リラクゼーションのための環境も提供している。	4
・保護者と適切に連携しているか	
保護者による学生支援が学生の就職、学習に重要であるため、各期の成績表の配布や保護者面談会や新入生の保護者向けの電話連絡等を実施している。また、日常の欠席連絡や問題のありそうな学生保護者には連絡を取り密接に連携をしている。また、過去に問題を抱えている学生が、入学後再び同様なケースとなる事が多いので保護者との連絡が重要である。	4
・卒業生への支援体制はあるか	
同窓会の開催や就職情報の提供は行っている。必要があれば再就職のための情報を提供している。ほか、教務運営に無理がない形での支援は検討している。	4
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	
依頼高校への就職指導や大学教授との地域活性プロジェクト「CANIプロジェクト」での繋がりや、新潟市とJR東日本など連携し実施した「新潟デスティネーションキャンペーン」に参画し、高校生や地域の小学生との共同プロジェクトを開催する。また、地域の小学校や公民館からの依頼によるコンピュータやロボットの実験教室を実施する等取組みをしている。その他、連携企業と専門学校生や高校生とが自由にロボットや組込みシステムの開発に参加できる仕組みなどについても実施の方向を検討している。	4

(6) . 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4 3 2 1
・校外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか。	4 3 2 1

① 課題

・なし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

・津波を考慮した災害時の行動計画を加味した防災マニュアルの策定を検討する。

(6) . 教育環境

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	
パソコンやOA機材は陳腐化が早く計画的に実施している。学習環境の充実と入学生募集の観点から、パソコンの入れ替え等に合わせ学生の研究・学習、興味・関心に合わせて、効果的な設備を用意し提供している。学生等が自由に研究できる環境を整えていきたい。	4
・校外実習、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	
就業体験は有意義なので推進していきたい。事前・事後指導やインターンシップ期間で状況確認をおこなっている。しかし、守秘義務の点で受け入れのない企業も多く、今後も企業開拓が重要である。 インターンシップに関しては賠償責任保険やインターンシップ保険に加入している。	4
・防災に対する体制は整備されているか	
施設・設備は耐震基準などに照らし合わせ工事実施。昨年度の計画により災害時の飲料水の確保、キャンパス棟には発電機が設置された。 災害に対し、学生ならびに教職員に啓蒙活動の機会を増やすことは効果的と考えている。	4

(10) . 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 3 2 1
・学生 ボランティア活動を奨励、支援しているか	4 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 3 2 1

① 課題

・社会貢献・地域貢献等実施できるよう可能な範囲で計画中。

② 今後の改善方策

・社会貢献・地域貢献等実施内容の検討している。

③ 特記事項

(10) . 社会貢献・地域貢献

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	
情報技術の進歩に沿った教育が不可欠であることから業界との連携、地域との交流は重要。研究設備を用意し関連企業と連携を進めている。施設・資金・マンパワーを確保し無理のない形で、学生等の研究と合わせ地域貢献できる仕組みを計画している。他、校舎をベンダー試験の試験会場として開放している。	4
・学生ボランティア活動を支援しているか	
社会を広く知ることが重要で、様々な経験ができるよう支援する。CANIプロジェクトが中心となるが、担当教員にて支援する体制づくりを進めている。他、新潟市のパソコン支援を中央公民館で実施している。	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	
新潟市生涯学習センターや地域の小・中学校からの依頼により、ボランティア講座の開設や理科の特別授業や高校での就職指導講座という形で実施している。学生主体の地域向けの学習講座や当校の教員が説明担当で学生がサポートとして実施する講座など種々実施している。学生全員が実施するものではないが、参加学生にとっては代えがたい機会となっている。	4